

DREAM 心の夢

手紙好きなきな秀吉 率直な自筆、今に

「送る相手の顔を思い浮かべ、心を込めて書きますよ」

11月22日、大阪市立鷹合小(東住吉区)の3年生を対象に開かれた手紙を書くための体験授業。講師として招かれた元教諭の山崎順子さん(62)が、児童約50人に呼びかけた。

携帯メール全盛の時代。手書きの大切さを伝えようと、日本郵便(本社・東京)が2010年度以降、各地の小中学校で取り組んでいる活動だ。

児童たちはこの日、祖父母や友人あての年賀状を鉛筆で書いた。「きれいな字でなくても、自分の思うこと、伝えたいことを書きましょう」と山崎さんは話し、少し余談を挟む。

多い仮名文字

「皆さん、大坂城を築いた人を知っていますか」「そう、豊臣秀吉さんは、手紙を送るのが大好きな人だったので」
3年生なら秀吉の名を知る子はいらぬだろう。ただ、手紙教室で登場するとは思ってもいなかった。秀吉は多くの自筆書状を残した武将の一人だ。当時、武将は秘書役の右筆に代筆させ、本人が花押(サイン)を握るのが通例だったが、秀吉の場合、身近な人への手紙や重要文書は自ら筆を執ったとされる。



山崎さん(中央)の指導で年賀状を書く児童たち。手書きで相手へ気持ちを伝える大切さを学ぶ(大阪市立鷹合小) 〓守屋由子撮影

大阪城探検

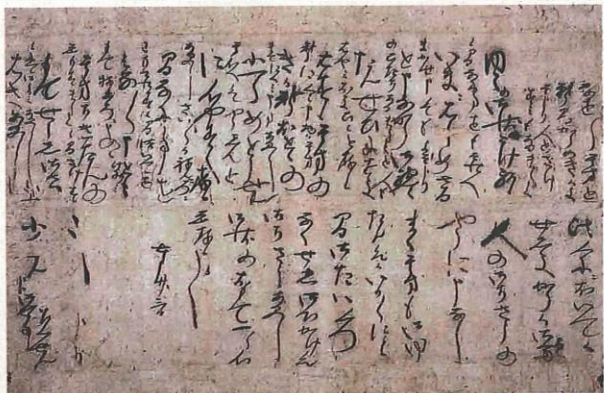
大阪城天守閣では、秀吉の文書として自筆書状8通をはじめ、朱印状や判物(花押を据えた手紙)を含めた計15通を所蔵する。内容は、戦況の報告や秀頼を溺愛して書いた手紙など、公文書や私信など多岐にわたる。
「5日に一度は爪を切るように」と養子・秀俊(後の小早川秀秋)にあてて日常生活の心掛けを簡潔書きにした

公私含め115通

朱印状(1592年)もある。筆まめの武将では、毛利元就や伊達政宗も知られるが、大阪城天守閣の芸員は「秀吉の手紙は悲喜こもももの心情が書かれ、人間性が余すところなく表れている」と評価。歴史学者・高柳光寿も著書「戦国の人々」(春秋社)で「何と朗らかなことよ。古今の絶品とさえいえよう」と称賛する。

現存する自筆は約130通。身内あての文面が多く、秀吉の人間性を浮き彫りにする。
関白時代の1585〜91年頃、正室・北政所に仕えた侍女「丑三」への書状はその一つ。
「自分が浪人の時、親切にしてくださったことを忘れがたく思う。病氣だと聞いて心配している」と見舞い、出世しても昔の恩は忘れない気持ちを伝えていく。原文の大半は仮名文字だ。
武将の書状を研究する福岡市

博物館学芸員、堀本一繁さん(46)は「仮名の多さに加え、肉声で語りかけるような文体が秀吉の特徴。相手は親しみを感じたでしょうね」と語る。
小田原攻めのさなか、北政所への書状は「久しく便りがないので心配している」との言葉を繰り返して、寂しさを強調している。ある催しに呼ばれず、機嫌を損ねた侍女たちには謝罪を重ね、晩年は息子・秀頼に親愛の情を再々伝えていく。
当時は謀略や裏切りが横行した乱世でもあった。書状の中には虚言やハッタリもあるが、頻りに筆を走らせ、ストレートな感情を伝えるのが好きな人間だったことが想像できる。
政治にもそれは生きた。1577年、播磨で勢力を持つ小寺孝高(黒田官兵衛)を味方に取り込もうと、送った書状は「お前のことはわが弟の小一郎(豊臣秀長)同然に心安く思っている」と口説く。感



名古屋市博物館は今年度、秀吉の書状を網羅した初の全集を発行する事業に乗り出した。関連文書を含めると7000以上あり、10年がかりの作業だ。
書状に目を通す学芸課長の鳥居和之さん(58)は「秀吉は手紙で人を動かす、心をつなぎとめるのが上手だった。自筆書状を丹念に読み解き、実像に迫っていきたい」と意気込む。
近年は手書きのはがきや封書が少なくなっているという。年賀状を例にすると、文化庁の2012年度調査でも宛名を手書きしない人は40%で、04年度に比べて13%上昇した。
手紙教室の講師、山崎さんは手紙を書く喜びを多くの人に味わってほしいと考えている。「日本には古くから手紙の文化がある。親が年賀状を手書きしなければ、筆を握る手が少なくなるのは当たり前。相手に率直な気持ちを伝える手書きの大切さを訴えていきたい」
そんな現代人の忘れかけたものを秀吉も、教えてくれた気がする。(田中洋史)



①秀吉が小寺孝高に送った自筆書状。仮名文字を多用し、味方になってほしいという思いを伝えている(福岡市博物館所蔵)
②仕分けされる郵便物。手書きのはがきや封書は減っているという(大阪市中央区の大坂東郵便局) 〓原田拓未撮影

太閤なにわの夢募金

大阪市と読売新聞大阪本社は、大阪城の地下に眠る秀吉時代の石垣を発掘、公開する事業の資金を募るため「太閤なにわの夢募金」に共同で取り組んでいます。1万円以上の寄付をした方に造幣局製造の記念メダル「太閤通宝」を贈呈するなどの特典もあります。
寄付は、ゆうちょ銀行または郵便局での振り込みか、公式ホームページ(<http://www.toyotomi-is.higaki.com/>)からのクレジットカードの申し込みになります。
振り込みは、市役所の市民情報プラザ、各区役所、サービスカウンター(梅田、難波、天王寺)などにある寄付パンフレットの専用の用紙が必要。寄付額に応じ、所得税、住民税が控除される優遇措置もあります。
問い合わせは大阪市・大阪城魅力担当(06・6469・5164)、読売新聞大阪本社事業本部(06・6366・1867)。

